

研修企画担当

鳥取県教育センター研究発表会を開催しました！

H28. 2. 15(月)
16(火)



今年度は、研究発表会を2日間開催しました。長期研修生の研究及び当センター職員と長期研修生との共同研究並びにスーパーバイザーによる学校教育支援事業について、研究の成果を発表しました。本号では、長期研修生の研究と共同研究について紹介します。

本年度の長期研修生は、小学校・中学校より5名の教諭がそれぞれの研究テーマを設定し、1年間の研究実践を行いました。発表された研究テーマは右表のとおりです。それぞれ

の研究が、本県の教育課題の解決につながる大変充実したものでした。研究の概要は、後日ホームページ上に掲載しますので、詳しくはそちらをご覧ください。

また、共同研究の発表概要は下のとおりです。当センターでは、今後も研究発表会の内容がますます充実するよう努めますので、来年度も多くのご参加をお待ちしております。



H27年度 長期研修生 研究テーマ一覧

学校名	氏名	研究テーマ
鳥取市立 国府東小学校	野田 有美	思考力、活用力を育む算数科学習指導の工夫 ～既習事項を活かして主体的に学ぶ子どもの育成をめざして～
鳥取市立 桜ヶ丘中学校	上川 寛子	主体的に学習に取り組む生徒の育成をめざして ～特別支援教育の視点を取り入れた学習指導の工夫～
琴浦町立 東伯中学校	吉田 達也	自治的活動のできる学級をつくるための生徒の自尊感情の育成
境港市立 第三中学校	延田 充紀	学習意欲の向上による家庭学習習慣の定着を図る取り組み～小・中のつながり、授業と家庭学習のつながりを重視して～
江府町立 江府小学校	川上 敦史	児童が互いに関わり合いながら主体的に取り組む学習指導の工夫～学習意欲を高める授業展開のあり方～

★共同研究【学力向上部会】

「児童生徒が主体的に取り組む学習指導における評価のあり方」をテーマとし、学習指導に関する4名の長期研修生の個人研究テーマに沿って、その授業や単元で身につけさせたい力が実際に身についたかどうかを見取る評価方法を研究しました。研究から、「一人一人の子どもが答えをどう作り変えたか“事前・事後”を比べて評価する」「『学んだことが次の問いを生んだか』『学び方（自分の成長）への気付きはあったか』という視点を持ち授業をデザインする」ことの必要性がみえてきました。

★共同研究【生徒指導部会】

「あたたかい学級を育む教師の指導技術～エキスパート教員の指導技術に学ぶ～」をテーマとし、3名のエキスパート教員に協力いただきながら研究しました。子どもと教師が信頼関係で結ばれ、子ども同士が認め合い聴き合う雰囲気のある学級づくりをするためには、子どもの意欲・自尊感情を高めるための技術や子どもが主体的に動き考える意欲・態度を支援する授業技術など、指導技術に共通性が見られること、それらの指導技術が教育効果を発揮するためには、教師の受容的、承認的態度が大切であることがわかりました。

5月13日(金)開催 『教育センターフォーラム 2016』のお知らせ

【内容】「基調講演」 村川雅弘 教授(鳴門教育大学)

学習指導要領改訂のキーワードにもなっている
「カリキュラム・マネジメント」「アクティブ・ラーニング」
それらを機能させる校内研修の活性化やOJTの進め方など
について、豊富な事例を交えてお話いただく予定です。

【その他のプログラム】

- ・福井県派遣の指導主事による報告
- ・ポスターセッション(共同研究、スーパーバイザー派遣事業等)
- ・ICT関係の展示・体験コーナー
など



教育力のある集団の育成をめざして

H28. 2. 1 (月) 於：倉吉市立上灘小学校

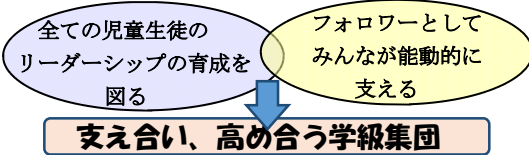
本年度の教科・領域指導力向上ゼミナール「小学校学級経営」では、Q-Uを活用した学級集団づくりについて研修を重ねてきました。

5回シリーズの最終回のゼミナールでは、これまでの学びを活かして、Q-Uの分析をもとにした授業実践を行い、その後、ねらいを達成するうえで個や集団への手立てが効果的であったか、熱心な協議が行われました。



【学級集団づくりとリーダー育成のポイント】

★リーダーの育成は、児童生徒の人格・社会性の育成をめざすもの



また、品田特任教授から「学級集団づくりとリーダーの育成」についてご講義をしていただきました。

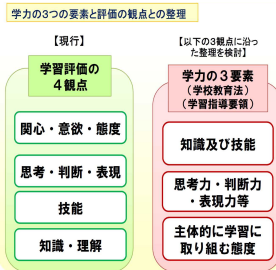
品田特任教授は、一部のリーダーだけを育てるのではなく、すべての児童生徒がリーダーとして活躍できる場、フォロワーとして仲間を支えられる場を意図的に作り出し、よりよい集団を築いていく必要性を強調されました。



学力向上担当

「アクティブ・ラーニング」と学習評価

昨年8月に公表された教育課程企画特別部会における論点整理では、学習評価の観点について、学力の3要素に沿った整理を検討していることが示されています(図参照)。



論点整理 補足資料より (P39一部抜粋)

「主体的に学習に取り組む態度」を評価するためには、

「アクティブ・ラーニング」の視点からの学習・指導方法の改善とともに、ペーパーテストの結果に留まらない多面的な評価の工夫が必要となります。当センターでは、その具体について共同研究に取り組みました。各学校でも参考にしてください。



【参照】文部科学省HP 教育課程企画特別部会における論点整理について (報告) http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/053/sonota/1361117.htm

ICT活用教育担当

ICT活用教育研修を充実します

来年度は、学校の情報化をより推進していくため、「鳥取県ICT活用教育推進ビジョン」に沿った「学校CIO研修」(学校管理職対象)と「情報化推進リーダー研修」(校内教育の情報化担当対象)を開催します(学校悉皆、地域別)。申し込みは、他の研修と同様、登録システムでお願いします。

また、情報モラル教育推進のため、各学校に「情報モラル教育校内研修用DVD」を3月中に配布します。校内での先生方の研修のために作成していますので、各学校での活用をお願いします。

平成27年度「情報通信の安心安全な利用のための標語」

書きこまない 自分が傷つく その言葉

鈴木 彩楓 さん (中学生・静岡県)



コラム

節 目

所長 大西 泰博

「子ども同士のつながりを大切にしたい」「互いに支え合える、あたたかいクラスをつくりたい」そして――、「そこに至る道筋があるなら、ぜひとも知りたい」

当センターと同じ施設内にある「こども未来中心(いじめ・不登校総合対策センター)」で、県内エキスパート教員の「匠の技」に迫る共同研究に着手した。

優れた教師は、何を育てているか。丁寧に授業を迫ってみたものである。

見いだされた視点の一つが、子どもと子どもの「関係性」。

授業の中で、つながりの糸を紡いでは編み込み、集団としての力もつける。そのためにも、教師と子どもとの信頼関係の構築が不可欠であると結んでいる。これからも、集団と個を関係づけながら高めていく営みを大事にしたい。

2月に開催した土曜自主セミナー。若手の先生を中心に80名を超える参加があった。講師は、高知大学の鹿嶋先生。生徒同士の心を繋いでいく教師の役割について、ご自身のエピソードを交えて語られた。ドラマ以上にドラマチックなノンフィクションに感動し、年度末には意図的に節目をつくるのが、関係性を築いた「責任」でもあるという示唆にも心を動かされた。

春。それぞれの学校で、クラスで、どんな物語が展開されているのだろうか。その一つ一つが、一人一人の成長の文脈の中で、かけがえのない節目であることを願う。